

10. <施設見学の効用>

皆様もご存知のことと思いますが、下水処理場は小学生（確か3年生か4年生）の社会科授業、公共団体が主催する見学会などの対象となっています。私が以前に勤務していたA市の処理場にも、小学生、市民（お弁当付きの見学ツアー）をはじめ、隣接する看護学校などの専門学校の学生が見学にきていました。施設見学に際しては、職員が交代で施設の案内や処理の説明にあたるのですが、看護学校の担当にはいつも希望者が殺到していました（理由は……？ご想像にお任せします）。ただし、看護学校の学生は分野が異なるものの、微生物に関する知識が有り、その質問は鋭く、時には間違いを指摘されるなど職員も相応の心構えと事前の勉強が必要でした。また、質問への対応については、小学生もかなり手強く、「なぜ」「どうして」「～って何ですか？」の連発に対し、丁寧にかつ判り易く説明するために四苦八苦したことを覚えています。日常勤務の中で無意識に使っている言葉の意味について、慌てて資料を読み返すことも度々でした。このように、施設見学は見学者に下水道への理解を深めてもらうだけでなく、職員にとっても自分の処理場や下水処理を再認識する絶好の機会となります。また、見学の後に送られてくるお礼の手紙や感想文には、ホロっとさせられたり勇気付けられたりと仕事に対する新たな意欲も湧いてきます。

「基本を大切に」「原点に戻って考える」施設見学において受けたこれらの洗礼は、いまでも私の仕事の中に生き続けています。

<20030117 若山 正憲>

※No. 12号(2003/1/17)に掲載